

# えもんみっけ!

～市民レポーターのページ～

市民レポーターの皆さんが、市内のさまざまな場所に出かけて、市民ならではの視点から小牧の魅力や身近な話題について取材した様子を、毎月15日号で紹介していくコーナーです!

REPORT 205

## 食の安全にこだわった グルテンフリーのどら焼き

三ツ瀨のアノ交差点のお店と言えば「あ〜あそこね」と言われるほど、この場所は昔から良く知られたところ。1年前に「どらカフェ三幸」は、テイクアウトもできるカフェとして、オープンしました。独自のこだわりで作るどら焼きの秘密をオーナーの野村実希さんに聞いてきました。



店内で焼き上げたどら焼きです

定番のラインナップ。写真右上から紅茶生どら、クリームチーズどら（右中）、抹茶生どら（右下）、苺入り生どら・季節限定商品（左上）、塩どら（左中）、生どら（左下）。旬の果物を使った季節限定のどら焼きもありますよ。



落ち着いた雰囲気です。

コロナ禍でのオープンを決めて、どんな店にしようかと悩んでいた時に出会ったのは、立派な銅板のどら焼き器。同時に、どら焼きの魅力にはまった野村さん。こだわりのどら焼きを作りたいと考えた末に辿り着いたのは、小麦を使わずに作るどら焼き。  
米粉、大豆粉、餅粉をブレンドし、きび砂糖とはちみつで仕上げた生地、北海道産の小豆ときび砂糖を使用したあんこ、米麹甘酒で甘味を出した豆乳の生クリームと、独自



どら焼きモーニング!

の製法でどら焼きを作ります。「スタッフやパティシエなど全員で試行錯誤して何度も作り直しました。自分たちの味を創り出すまでに時間がかかり、予定していたオープンが遅れてしまったのですが」と、野村さんは笑います。

### テイクアウトも飲食も

テイクアウトが中心ですが、カフェとしてモーニングなどメニューも充実しています。

地域の人たちの憩いの場でありたいという思いもあり、ゆったりした店内に仕上げたのだとか。駐車場が広いので、ママ

友などのランチもよさそうです。  
アクティブな店に：  
オープンから1年が経ち、今年10月からはランチを始めたり、マルシェに出店したり、近々、オンラインショップも開設する予定です。小牧のソウルフードになってもらいたいどら焼きです。

### 編集後記



みくる

最近、西部地区は飲食店や薬局など新しい店がどんどんできていますよね。ちよっと小牧でも注目のエリアになる予感! 見(診)る、食べる、遊ぶの3拍子揃ってる!

今回の取材先

Dora cafe 三幸



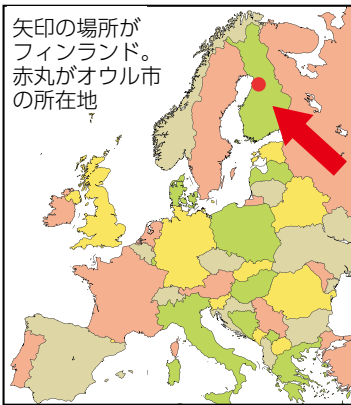
住所…三ツ瀨16902  
電話…75・25200  
営業時間…9:00~17:00  
※テイクアウトは10:00~  
定休日…年末年始  
HP…どらカフェ三幸で検索

# 日本と フィンランドの懸け橋に



小牧出身で小牧が大好きな内田さん

北欧の国フィンランドで働く小牧出身の女性  
います。彼女が日本を飛び出したのは社会人として働いてからです。なぜ日本から海外へ飛び出したのか、いまや日本とフィンランドの架け橋として活躍する内田貴子さんに話を聞きました。



内田さんが暮らす街はフィンランドのオウル市。日本とは日照時間の差がかなり激しく、冬至は10:30に日が昇り、14:30には沈みます。逆に夏至は白夜という呼び名の通り、夜でも明るく、眠りにつづくのもひ

と苦労だぞつ。オウル市は北フィンランドの中では最大の都市で、日本人も現時点で、80人ほど住んでいます。

## 留学のきっかけ

小牧南高校から神奈川大学・大学院工学部を卒業し、日本で就職しましたが、高校時代から漠然と海外に住んで勉強したいと思っていました。父との突然の別れを機に「人生は一度しかない」と母にも背中を押され留学を決めました。北欧の質の良い教育に惹



オウル市発行の雑誌「ピュオーレ」の表紙を飾りました。

海外に住んでみて「もっと多くの日本人が日本から飛び出してほしい」と話す内田さん。「海外から客観的に日本という国を見る力、本質を見抜く力、固定概念にとらわれずに考える力を身につ

## 「行ける時が適齢期」

海外に住んでみて「もっと多くの日本人が日本から飛び出してほしい」と話す内田さん。「海外から客観的に日本という国を見る力、本質を見抜く力、固定概念にとらわれずに考える力を身につ

かれ、オウル大学に留学、在学中に産業・雇用支援と経済局を兼ねたオウル市所有の公社にインターン入社し、MBA取得後、有期雇用社員となり、近年、無期雇用社員へ。オウル市と日本を、世界を繋ぐために日々奔走しています。知識と経験、人脈を生かして、日本に、そして小牧に貢献したいとも思っています。それが今回「小さな北欧美術館企画展」として実現しました。

## 毎日の積み重ねが人生

「海外へ留学できる時が適齢期」と、笑います。いつか海外と日本を繋ぐ仕事が出来たいと思いついて、今それが実現しています。実際に会社に就職できたのは日本での社会人経験があったからこそでした。

身近な目標は、納得できるレベルまでフィンランド語をマスターすること

小さな北欧美術館企画展  
**アンネ・パソ展**  
～フィンランドの自然から生まれた幾何学美～  
場所：まなび創造館市民ギャラリー（ラピオ4階）  
会期：R5/1/7(土)～9(月・祝)  
時間：10:00～18:00（最終日のみ～16:00）  
主催：ノルディックフト  
後援：ビジネスオウル（フィンランド・オウル市経済局）、他  
小さな北欧美術館サイト：<http://www.sopo-museo.jp/>  
特別企画：①ロヴィ色塗りワークショップ ②インスタフォトコンテスト ③アンネ・パソ氏と繋いでインスタライブ（予定）

入場無料



とだそうです。そして、「不確かなことが増えていく世の中で、数年先の具体的な目標を立てるよりも、振り返った時にいい人生を歩んできた実感できるように、日頃より感謝をしながら楽しく、私らしく、毎日を積み重ねていきたいと思っています」と、これからの思いを自分の言葉で語ってくれました。

## 編集後記



とっても素敵な女性で、お話を聞いていて自分も何かできるかなと、前向きな気持ちになりました。学生向けに講演もしてくださるそうなので、小牧の子どもたちも話を聞いてほしいな

今回の取材先

内田貴子さん